



深淵  
 物語  
 女  
 今川  
 二



2914  
 2





2914

特

昭和九年七月六日 東京

新見

深情 俚言 婦女 今川 卷之二

江戸

南仙笑楚満人校

第三二回

彼の婢女ハ玉座市山亦が同のよまうせりとも原と  
引り返すつゝ「七まうらお破るさひまう〜肉の  
迄ととらせるとあつ〜やう〜都う〜勢右高のよま  
婿さぬが来まう〜こゝろがそのお娘也さぬ何でも  
言号と志こ人より外は直とと持るのハ不きと

おつゝおのしよとて。大まきよめめく。上方から。
 人しうら星雅ま婦のたまふ。且那の妻と云う。
 とあかひやのSawaraのいふ。
 可成り。とある。とある。
 おつひ。
 まことよ美しう。
 来る。
 ことまふ。

孫のしん。何れもあつち。
 ます。
 おむす。
 のこ。
 せん。
 何れ。
 せん。
 せん。





造さんお志げさんとお連掬つぎがして暮きる及あのどく  
 掬あそがせト。いとぬごひして飯くりゆく お志あそ「お志あそやけ  
 お肴さかなとお志あそさんの酒さけ入いりせとあげや。そまよ  
 さろき本ほん丁ていうら来きてお肴さかな係けいもつあよあげが  
 ひひよ。お隣となりハ大おほ騒さわぎごのみト久ながくお柳やなぎかかま  
 五ご茶ちやモ且またお彼の美うつくしのと一ひと宿しゆくの沢さわ糸いとと山さん見み  
 うさむらううさむらうさう入いる 卷まき「まごいれやせん。お柳やなぎがひひき  
 つく毎日まいにちく掬あそびよあそびそらき 市山いちやま「お柳やなぎさん





Vertical Japanese text in a cursive style, likely a chapter title or a short story. The text is arranged in a single column, reading from right to left. The characters are somewhat faded and difficult to decipher precisely, but they appear to be a mix of kanji and hiragana.



らもく入あまびる世入 柳「けのくあまびる世入の  
 でござりの外年際より此お人のあまびる世入  
 余程美しうござります。七さへやえささんが見  
 るえまじら代りよ命よ中へしとらひまを  
 だらう 柳「そまは何ものし入は那へのもあつ  
 かつてりから好く始もあるら命へあつた  
 みま中のやまやう 柳「そまはしるがま何ぞあま  
 こへらる世入 柳「今葉はますよとりの世入

隣のあつたの肴をとりぬきまの 柳「また後へ  
 の世入とあげらるゝとあまびる世入 柳「あまびる世入  
 ござりま〜しうらあげませんゆゑ持世であげ  
 ます。お二人でる上りま〜 柳「またくま〜  
 柳「あまびる世入 柳「あまびる世入  
 此まの内ま〜し〜。このい女屋荷は新玉  
 子焼も世々からん。ちりま〜し〜  
 の〜あまびる世入 柳「あまびる世入





後ごとあるよよくして安やすく暮くらむののなり  
 ら叶かなへねる昔むかしの葉ははるるむとくひの自い由ゆうののこころ  
 りつよのうく金かね彩さい山の奈ならぬ糸いと解かて天あまのす地ちす  
 るよよよらつしゆんては奈なのの一ひと帯おびとらふ本もとの中なか  
 又またあるとある持も物ぶつを人ひとが柳やなぎ一ひとコこサさををる長ながののあ  
 捨あきらめちのく。多おほくひひよとあたままのの一ひとそ  
 だろけねその時とき返かへりよ品しやう川の満みち来きえへあがりや  
 老おきないぶが市いち山やまが丸まる種ねとりの子こと月つき見み屋やのの目めはは

しめよへむくの目めつむが悪わるしよむとらむと。たニ  
 日ひはむむるるるるるる。そむむあへんるののこ  
 と後ご舞まかようむとぐとて奈なへたののつこぶが奈なよ遠とほ  
 乃なと教か白はく眼がんサさ一ひとハは〜ト張ちやう申まをるるあり  
 暫しばし忘わすれしむ地ち志しげへ不ふ圖と投なげり皆みなくを月つき見み屋やのの後ご  
 次つぎ郎らうの片かた控ひかえて奈なののるののををらよよりかると。  
 お志しげの方かたうへあつと六む尺せきねど。まがふらうむら  
 急いそ入いるまじぶとすずんらうす類るいと款かお志しげへ泪なみだを

何とやらに  
 今更なる  
 伏し居る内へ  
 みるく  
 何とやらに  
 今更なる  
 伏し居る内へ  
 みるく

月夜に  
 今更なる  
 伏し居る内へ  
 みるく

うんとむろりのよき氣と云ひ  
 そのうらまはづは情こおらるる  
 「あまげさる〜」  
 お待りせし。そまじくはら  
 から。私がりひひよあま〜と  
 あげやまやうと後(まは)ま  
 お柳や紙入のうらまは葉が  
 あるうら持と来る下耳の



口と上を。あまげさる〜と  
 ひんあまがつういごや目を  
 開きぬ次郎が顔を見ても  
 眼めくそのよ物もいじま  
 涙を目よつたの持てる。  
 ちやうふまらうち。雷も止  
 雨も晴るらよは皆くたどて  
 息を吐〜「あ〜い〜」









運ぶどころはお知あそなすよんけんけま〜  
 た〜もそま〜は爾そらとどか〜が。あ〜の且  
 ねとりらる者次郎さるの〜  
 さますう入 絨〜  
 さまのま〜  
 知〜ぬ類〜  
 ござります。そま〜あ〜  
 ますのが私ハ復がまます

きてま。一〜ま〜人〜  
 う。そま〜世〜  
 まま〜  
 さま〜  
 ち〜  
 入〜あるま〜  
 あり〜はち〜  
 あり〜はち〜



そふまゐるがよろろひの。おきげさん仕ゑたる。氣のさ  
幸ひごうら私がお披露中まゝやう。春「あひごふ  
柳「あゝ明日がよろろひかやうあるまませんうへ。  
お隣へりつくと。お新造さぬよそやちて糸のもふ。  
外の者でハロウウ。私がりつてよく修する。  
から。おきげさんさみしくも。ちつどの内まうとく  
お出よト焼くぐうと。お柳ハ隣へお出。あゝお  
おきげさん次郎と物もり。おきげさん居り。おきげさん

ナゼそんなはぶの。おきげさん私とん。おきげさんこのうへ。  
「いへ。おきげさん。おきげさん。おきげさん。おきげさん。  
よゝよ何が苦勞よるう。おきげさん。おきげさん。おきげさん。  
ろくは喰う。おきげさん。おきげさん。おきげさん。おきげさん。  
のみして口も。おきげさん。おきげさん。おきげさん。おきげさん。  
おきげさん。おきげさん。おきげさん。おきげさん。おきげさん。  
親の。おきげさん。おきげさん。おきげさん。おきげさん。おきげさん。  
で。おきげさん。おきげさん。おきげさん。おきげさん。おきげさん。





ますよ。いふにいふにぞ今夜  
 中よあんできぬひはらふし  
 つますよ。まをまき  
 私か頼ひか叶ひません  
 うら。りりまどまどらうて  
 人の世路よるのませうら  
 死んでままへ眼もさ  
 おひもろもよらうらうら思

ますよ。一をそんる眼  
 あるへトあうらうらうら  
 由系。おまげの物もの  
 みかろりとして居る  
 お柳へ返り。振子の  
 後次郎へあうらうら  
 巨棒へよりうらうら  
 色髪かみの柳やなぎ陰かげまうら尾



花の散飯のト唄つくりら入る柳（いづれぞぞぞ）  
 明日往しゆのめでごぼりまますね入（あまのこまき）  
 そあしつゝあつあつが枝あが葉まじがひひ（てまき）  
 つしつめくのびいら（ひら）。慶くみるひつちやう（ひら）。三  
 間よまらるからひ（げ）。サ（ま）。ま（ま）。ま（ま）。ま（ま）。ま（ま）。ま（ま）。  
 からモウロ（ね）。の（ね）。篠（ね）。や（ね）。ま（ね）。や（ね）。う（ね）。ト（ね）。ま（ね）。ひ（ね）。入（ね）。あ（ね）。の（ね）。  
 ぎ（ね）。ら（ね）。篠（ね）。ら（ね）。ん（ね）。で（ね）。り（ね）。る（ね）。ゆ（ね）。き（ね）。お（ね）。柳（ね）。の（ね）。う（ね）。ら（ね）。ま（ね）。死（ね）。な（ね）。ら（ね）。け（ね）。  
 る（ね）。づ（ね）。ら（ね）。柳（ね）。一（ね）。お（ね）。ま（ね）。げ（ね）。さ（ね）。せ（ね）。も（ね）。何（ね）。が（ね）。病（ね）。入（ね）。で（ね）。も（ね）。け（ね）。け（ね）。で（ね）。ら（ね）。

る（ね）。ま（ね）。の（ね）。ら（ね）。う（ね）。ら（ね）。う（ね）。ら（ね）。く（ね）。と（ね）。す（ね）。私（ね）。が（ね）。結（ね）。く（ね）。あ（ね）。げ（ね）。よ（ね）。う（ね）。ら（ね）。ら（ね）。  
 る（ね）。ひ（ね）。う（ね）。入（ね）。柳（ね）。一（ね）。お（ね）。ま（ね）。げ（ね）。さ（ね）。せ（ね）。も（ね）。何（ね）。が（ね）。病（ね）。入（ね）。で（ね）。も（ね）。け（ね）。け（ね）。で（ね）。ら（ね）。

みくろく。そして顔が赤らむ。さういふ  
「おれらにでもいひつゝはすよ。私を本町よあつま  
あつ時ちやや。仙女香たつら。買つてつけま  
たが今で六白彩。あつていりま井えト。から極と  
「モモ。且ねよくおれま。しろうな。ころも  
とむしとあつげさんち。うつと前をかんを借  
ち娘子を病入よ。そかく度ごぞ。そまごでも  
好く男よとらきると忽よくる。さういふよ。おれ

「おれさん。誰ぞ流しにいひぬ。あつ人があるか。  
こんちよ。いふや。私ども。あつら。さういふ。  
おれみでありますよ。おれよ。おれよ。おれよ。  
「どのも。病入のあつま。せんが。おれ。ま。男といふ  
物入り。そと。さういふ。おれ。おれ。おれ。おれ。  
「どのも。あつま。おれ。おれ。おれ。おれ。  
「あつ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。  
「あつ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。  
「あつ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。  
「あつ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。」

今川二

だとしひ舟うら<sup>さき</sup>。世して<sup>さき</sup>あま<sup>きり</sup>せ<sup>きり</sup>。「い<sup>し</sup>あ<sup>ら</sup>ひ<sup>ひ</sup>」  
 ち<sup>ら</sup>せ<sup>り</sup>ら<sup>ら</sup>柳<sup>ら</sup>「あ<sup>ら</sup>う<sup>ら</sup>く<sup>ら</sup>い<sup>ら</sup>む<sup>ら</sup>よ<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>い<sup>ら</sup>し<sup>ら</sup>く<sup>ら</sup>私<sup>ら</sup>直<sup>ら</sup>ぬ<sup>ら</sup>  
 より外<sup>ら</sup>よ<sup>ら</sup>人<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>う<sup>ら</sup>。あ<sup>ら</sup>は<sup>ら</sup>る<sup>ら</sup>。「い<sup>し</sup>あ<sup>ら</sup>ひ<sup>ひ</sup>」が<sup>ら</sup>邪<sup>ら</sup>たる<sup>ら</sup>ら<sup>ら</sup>邪<sup>ら</sup>  
 産<sup>ら</sup>まへ<sup>ら</sup>て<sup>ら</sup>む<sup>ら</sup>ら<sup>ら</sup>さ<sup>ら</sup>や<sup>ら</sup>さ<sup>ら</sup>や<sup>ら</sup>う<sup>ら</sup>。あ<sup>ら</sup>は<sup>ら</sup>る<sup>ら</sup>。「い<sup>し</sup>あ<sup>ら</sup>ひ<sup>ひ</sup>」が<sup>ら</sup>邪<sup>ら</sup>たる<sup>ら</sup>ら<sup>ら</sup>邪<sup>ら</sup>  
 び<sup>ら</sup>る<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>い<sup>ら</sup>し<sup>ら</sup>け<sup>ら</sup>む<sup>ら</sup>と<sup>ら</sup>あ<sup>ら</sup>柳<sup>ら</sup>き<sup>ら</sup>て<sup>ら</sup>維<sup>ら</sup>も<sup>ら</sup>も<sup>ら</sup>う<sup>ら</sup>て<sup>ら</sup>あ<sup>ら</sup>は<sup>ら</sup>る<sup>ら</sup>さ<sup>ら</sup>や<sup>ら</sup>  
 柳<sup>ら</sup>「誰<sup>ら</sup>も<sup>ら</sup>さ<sup>ら</sup>を<sup>ら</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>ら</sup>て<sup>ら</sup>ま<sup>ら</sup>せ<sup>ら</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>ら</sup>ら<sup>ら</sup>サ<sup>ら</sup>ア<sup>ら</sup>早<sup>ら</sup>く<sup>ら</sup>あ<sup>ら</sup>は<sup>ら</sup>る<sup>ら</sup>ら<sup>ら</sup>  
 行<sup>ら</sup>燈<sup>ら</sup>乃<sup>ら</sup>火<sup>ら</sup>を<sup>ら</sup>か<sup>ら</sup>き<sup>ら</sup>た<sup>ら</sup>て<sup>ら</sup>て<sup>ら</sup>火<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>傳<sup>ら</sup>へ<sup>ら</sup>あ<sup>ら</sup>る<sup>ら</sup>  
 婦女今川卷之二終



